

防災・減災

重要な研究開発課題：警報・情報伝達技術

個別政策目標：災害に強い新たな減災・防災技術を実用化する。

【これまで】

- ・情報の上流側からの単方向を主体とした情報共有
- ・既存の通信技術による情報収集・伝達手法
- ・事前の避難等に役立つ情報提供が不十分



【これから】

- ・災害情報の収集・伝達手法の高度化
- ・デジタル双方向通信等による災害情報共有システム

情報収集・伝達手法の高度化

- ・防災情報共有プラットフォームの活用
- ・災害時要援護者等への確実な情報伝達
- ・避難情報をリアルタイムにかつ双方向に共有できる技術

テレビ・携帯電話・情報家電等を複合的に利用し、個人の特性を踏まえた最適な音声・文字・画像情報の伝達手法の検討



テレビ



パソコン



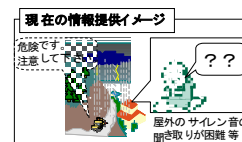
携帯電話



情報家電



固定電話/FAX



【成果目標】

- ・2010年度までに、警報等の情報伝達を高度化させ、行政においては初動対応の迅速化、適正な判断を可能、個々においては主体的で迅速・的確な初動判断と避難行動を可能とさせる。

テロ・犯罪の防止

重要な研究開発課題：有害危険物質の探知・処理技術

個別政策目標：深刻化するテロ・犯罪を予防・防止するための新たな対応技術を実用化する。

【これまで】

- ・交通・輸送機関に普及している検査装置は検知不可能な危険物が存在し誤検知が多く、また検査時間・コストを要する。
- ・多人数が利用する鉄道等での検知技術が未開発
- ・国際条約（改正SOLAS条約）発効等に伴い、高規格コンテナターミナル等での出入管理が義務づけ

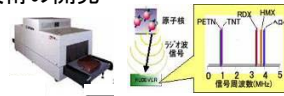


【これから】

交通・輸送機関のセキュリティ向上と円滑な移動の両立を実現する高精度で効率の高い検知を可能とするための、

- ・手荷物検査における爆発物判定の高精度化
- ・旅客の多人数同時検査
- ・自動化・共通化された港湾出入管理システムの開発

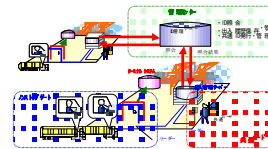
- 手荷物検査における爆発物判定の高精度化
「ラジオ波」の活用による、爆発物の種類を特定する検査技術の開発



- 旅客の多人数同時検査
「ミリ波」の活用による、非金属の凶器・爆発物等の検知、検査対象者に意識させない検査、多数の乗客のリアルタイム検査を実現する検査技術の開発



- 港湾出入管理システムの自動化・共通化
高規格コンテナターミナル等における自動化・共通化された出入管理のシステム構築



交通・輸送機関の
セキュリティの向上

安全かつ円滑な
旅客・貨物輸送の
確保

【成果目標】

- ・2010年度までに高精度な検知技術を開発し、交通・輸送機関におけるテロ等の発生防止を目指す。